

ウィルソン病

内服薬で症状が抑えられる

■ 避けるべき食品と推奨される食品

避けるべき食品 (銅の多い食品)	レバー(肝臓)、もつ、甲殻類(えびなど)、貝類、豆類、きのこと類、コーヒー、ココア、チョコレート類、緑色の強い野菜、大量の穀類、干しぶどう など
推奨される食品	肉類、牛乳、乳製品、無色野菜、水分の多い果物 など

「ウィルソン病ガイドライン」(日本先天代謝異常学会)より

また、眼の症状として、角膜のまわりに銅が沈着して青緑色や黒緑褐色になり、視力が低下することもあります。カイザー・フライシャー角膜輪と呼ばれる、ウィルソン病特有の症状で

また、眼の症状として、角膜のまわりに銅が沈着して青緑色や黒緑褐色になり、視力が低下することもあります。カイザー・フライシャー角膜輪と呼ばれる、ウィルソン病特有の症状で

また、眼の症状として、角膜のまわりに銅が沈着して青緑色や黒緑褐色になり、視力が低下することもあります。カイザー・フライシャー角膜輪と呼ばれる、ウィルソン病特有の症状で

AL T (GPT) など肝機能が異常な数値を示し、ウィルソン病が発見される場合も少なくありません。脳に銅が蓄積したことによる症状は、早い人で小学校高学年、多くは15〜16歳以降に現れます。ロレツが回らなくなったり、手足がふるえたり、歩くのが不自由になるなどの症状が出ます。精神状態が不安定になって、無気力になったりうつ状態になったりする人もいます。

ウィルソン病は、血液中のセルロプラミンの量が減少し、尿の中に銅が増えるため、血液検査によるセルロプラミン値や尿検査で銅の量を調べることで診断します。なかには、10歳代〜20歳代では目立った症状が出ずに、30歳代〜50歳代でウィルソン病と診断される人もいます。病気に気づかず放置すれば、これらの症状が次第に進行して、肝不全や神経障害で寝たきりになってしましますが、ウィルソン病は内服薬で治療が可能な病気です。

さらに、できるだけ、銅が多く含まれる食品の摂取を避け、低銅食を心がけることも大切です。銅を多く含む食品には、レバー、貝類、甲殻類、豆類、チョコレートなどがあります。症状がそれほど出ていないうちに治療を始めれば、症状の進行は抑えられ、学校生活、仕事、妊娠・出産に支障が出ることはほとんどありません。ただ、長期間、薬の服用を怠ると症状の再燃や悪化を生じたり、劇症肝炎を起して死亡したりするケースもあるので要注意です。

体に銅が蓄積し肝障害、脳障害が起こる

ウィルソン病は、食事からとった余分な銅が体の外へ排出されず、肝臓、脳、角膜、腎臓などにたまってしまいう病気です。この病気の発見者である英国人医師の名前から病名がつけられました。

ところが、ウィルソン病の人は、肝臓から胆汁への銅の排泄機構が障害されているため、肝臓に銅が蓄積してしまいます。また、肝臓から血液中にあふれた銅が、脳、角膜、腎臓に貯ま

り、さまざまな症状を引き起こします。一般的には、3〜15歳くらいのときに、肝機能障害や黄疸で眼球や皮膚が黄色くなるなど肝臓の症状を起こして病気が発見されます。特に自覚症状はなく、血液検査でAST (GOT)、

ウィルソン病は、3万5000〜4万5000人に1人に発症する病気です。難病(特定疾患)に指定されていますが、確立された治療法があり、早く見つけて治療すれば病気の進行を抑えられます。一般的には3〜15歳くらいで病気が発見されますが、大人になつてから診断される人もいます。発見が遅れると命にかかわることもありまますので、この病気について知っておきましょう。

監修



東邦大学医療センター大橋病院
小児科准教授
清水 教一 先生
(しみず・のりかず)

●略歴
1983年、東邦大学医学部卒業。ワシントン大学研究助手、東邦大学医学部第2小児科講師などを経て、2011年より現職。専門はウィルソン病の治療と研究。日本先天代謝異常学会「ウィルソン病ガイドライン」の策定委員のほか、日本小児神経学会評議員、日本微量元素学会評議員などを務める。

